



光があなたに遣わされた一縄目から解き放ち、いのちをもたらすためにー

タリタクム日本運営委員

シスター野上 幸恵(聖心侍女修道会)



「人身売買／人身取引」という言葉を聞くと、あの日々のことが思い起こされます。あの女性たちは今どうしているかしら?と。1980年代から日本に働きに来ていた女性たち。彼女たちが夢見ていた日本での働きは、現実となんとかけ離れていたことでしょう! 現代の奴隷の如く性産業の中で動物、もののように扱われていた女性たちのことが。そして、今も形を変えて、この私たちの社会に潜んでいる一種の奴隷制を前に、私たち一人ひとりに「目を見開いて見なさい。起きなさい(タリタ・クム)そして歩きなさい」と言われているようです。

1989年の入管法改正、90年6月施行の中に「研修」という形で1年間の実習として在留資格が認められた「研修制度」が「技能実習生制度」へとつながり、タリタクム日本はその課題に真摯に取り組んでいます。「研修制度」が導入されてから受けた相談の数々、そして受け入れの契約書作成の相談に訪れた社長の姿。いのちを脅かされている人々とともに歩み、制度による人権侵害を正すためのたゆみない行動は、人々の置かれている現実を見つめ、人々のいのちを守り、人々の権利を回復する道のりです。今もなお「技能実習生」への深刻な人権侵害、「いのち」の軽視が後を絶ちません。が、「NPO 法人移住者と連帯する全国ネットワーク」などの絶え間ない提言や働きかけにより、年内には技能実習制度の抜本的直しのための有識者会議が発足する予定です。

神の言葉が、タリタ・クムを発せられ死に囚われていた少女を起き上がらせられたように、私たち一人ひとりへのタリタ・クムに耳をすませたいと思います。

「神のことばが肉となり、私たちの間に宿られた」(ヨハネ1・14)

神の言葉がわたしたちのうちに宿られる主のご降誕が間近です。このために、聖マリアの「お言葉のとおり、この身になりますように／フィアット」を神は求められました。

今年のクリスマスに神は私に何を求められているのでしょうか?

神の求めに「フィアット」と応えることができるように、
主のみ言葉が私たち一人ひとりのうちに宿られ、
人としての尊厳を踏みにじられている人々のもとへ近づき、
彼ら、一人一人が人としての十全ないのちを取り戻せるために、
構造的な人権侵害をなくすため、世の光、地の塩であり続けるために、



主よ、急いで来てください!

タリタクム日本・秋のオンラインセミナー2022 「外国人技能実習生への支援と制度の廃止に向けて連携を」

タリタクム日本運営委員
シスター狩野 敦子(礼拝会)

10月1日、タリタクム日本オンラインセミナーが開催され、およそ300名が参加しました。開催にあたりタリタクム日本運営委員長の Sr.弘田しずえ(ベリス・メルセス会)が、「まだまだ、技能実習制度についてもっと知りたい！」という要望があったために今回の企画に至った経緯を説明し、「まず関心を持ち、知ること、知らせることが行動につながる」と訴えました。その思いがつながり、皆が共に歩めるようお願いしつつ祈りを捧げ、セミナーはスタートしました。

最初は巢内尚子氏(東京学芸大学特任講師)による講演「支援の更なる連携を～ベトナム人技能実習生ホットラインの報告から」です。2020年2月頃からコロナ禍のために困窮するベトナム人が増えていることを知り、食料支援として「一杯の愛のお米プロジェクト」が2020年4月から始まりました。国籍で見ると対象者の大半がベトナム人であり、在留資格の視点から見ると70%程度が技能実習生でした。この食料支援と同時期にベトナム人技能実習生ホットラインも始まりました。労働問題や住まいの問題を解決することが目的でした。各地の会場(北海道、岐阜、広島、大阪、北九州など)でも展開されています。相談対応には連携とシステム化がなされています。東京では、ホットラインのアクターとして相談員(法律家、労働組合、支援組織、専門家)、通訳者、記録者、事務局が協力して動いています。また、外国人技能実習機構への申告支援に関する説明と、実習生のケース報告も行われました。



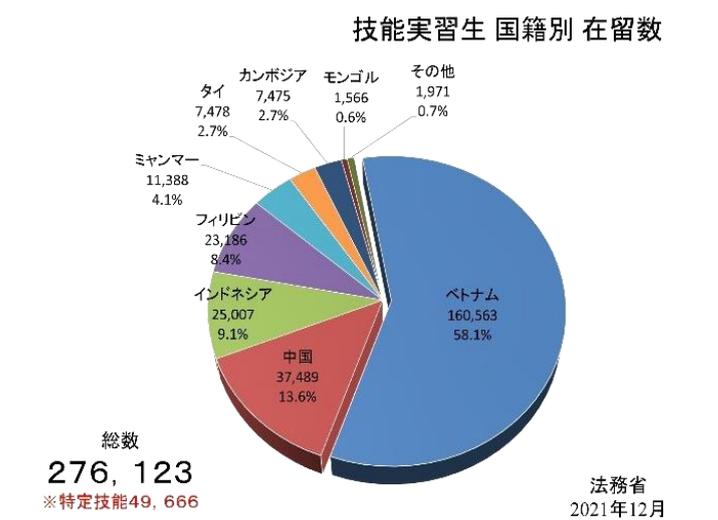
次に、Sr.ダン ティ ジェン フォーン(アシジの聖フランシスコ宣教修道女会)が、支援者として証言し、賃金を未払いにされたベトナム人の権利を守るために会社と交渉し、脅迫を受けながらも労働組合と連携して、問題解決に至った体験を分かち合いました。さらに技能実習生からの証言では、妊娠・出産に至るまでの状況を知ることができました。今は日本に戻り、再び技能実習生として働いている彼女は、「圧力をかけられても、落ち着いて相談して。赤ちゃんをおろさないでほしい」と訴えました。

もう一つの講演は、鳥井一平氏(移住者と連帯する全国ネットワーク代表理事)による講演「技能実習制度の廃止に向けて」です。日本全国には、技能実習生という名のもとに様々な業種の仕事に従事している外国人の存在があることが、膨大な統計資料から説明されました。

その中で投げかけられた問題は、技能実習生として技能を本当に学べるのか？実際は労働者受入制度になってはいないか？ということです。労働契約があっても、労使対等原則が適用されず、賃金未払い、低賃金、労働災害が起きても十分な補償も得られず、暴力、強制送還などの問題が発生しています。

民主主義国家である日本における労働契約とは、労働力を提供し、その代価として給料が支払われるという仕組みです。しかし、「妊娠・出産はだめです。解雇します」と言い渡されています。小手先の修正ではなく、技能実習生制度を廃止し、新たな制度を作るべきだと講演者は主張しました。大きな一歩を感じました。

私たちは多文化共生社会で共に歩むことを目指しています。制度の不備を糾明するより、労働力不足という現実があり、それを解決するには何が必要なのかを考え、行動を起こす時が来ているのです。



最後に J-CaRM 委員長の山野内倫昭司教がまとめとして、外国人労働者の受け入れ方、制度を考える時が来ているということをご自分の体験と併せて語られました。それは日本人と外国人が一緒に歩む道です。そして、祈りと具体的な行動を取るよう励まされました。

そのイメージとして一艘の舟に多くの人に乗っている像(2019年の難民移住移動者の日にヴァチカン広場に設置)の写真が大写しされ、参加者全員で共生文化社会を目指し、未来に向かって歩むようにと祈り、セミナーは閉会しました。

タリタ・クム・アジア会議

タリタクム日本運営委員会

シスター弘田 しずえ(ベリス・メルセス宣教修道女会)

2022年8月22-25日、タイ・バンコック大司教区司牧センターで、「人身取引のないアジアのネットワークとして網を打つ」をテーマに、タリタ・クム・アジア第4回地域会議を開催され、アジアの13カ国から合計63名がバングラデシュ、カンボジア、東ティモール、インド、インドネシア、日本、韓国、ミャンマー、パキスタン(オンライン)、フィリピン、スリランカ、タイ、ベトナムそしてローマからのタリタ・クム国際コーディネーターを含む合計63名の参加者がありました。日本からの参加は、ユース・アンバサダーの小林恭平さん、シスター永瀬、クラリータ・サンチェスさんと弘田でした。

会議の目標は:

- 1) アジアの文脈における人身取引の現実について理解を深める
- 2) アジアにおけるタリタ・クムのネットワークを強化し、人身取引対策における諸宗教団体や他の組織との連携を強化する
- 3) 2020-2025年のタリタ・クムの優先課題およびタリタ・クムの活動への呼びかけの実施状況を評価する
- 4) 参加者間の実践と経験の相互学習の機会を提供する
- 5) 養成、コミュニケーション、防止、ネットワーキング、アドボカシーに焦点を当てた地域ハブ・チームの実施を強化する
- 6) 人身取引防止におけるタリタ・クムの使命とビジョンに対する若者のコミットメントを高める



会議初日には、各国のタリタ・クムが、問題点や様々な活動について報告しました。子どものオンライン性的搾取(OSEC)、性的労働搾取、安全でない移住などの問題について話しあい、女性、少女、子ども、移民労働者、学生、教師、コミュニティ・リーダーなど、主要なターゲットグループを確認しました。私たちの強みは、タリタ・クム・コアグループ、教会やそれ以外のパートナーとの協力、予防と保護に関する活動、そしてアドボカシーです。また、新型コロナウィルスの制約、多くの国でフルタイムのタリタ・クムの担当者がいないこと、国によって設立背景が異なること、ある国では移民労働者や国内避難民の数が増加していることなどの課題に直面していることが指摘されました。

インドネシア、日本、韓国、フィリピン、タイ、ベトナムからユース・アンバサダーの参加があり、集会の雰囲気をもっと盛り上げるために、彼らの活躍が有意義でした。会議 2 日目には、仏教、カトリック、イスラム教の方達から、人身取引への取り組みが紹介され、ネットワーク、思いやりの心、家族の役割、人間としての成長の意義などが、共通の価値観として確認されました。



その後、(1)バーン・ホーム・ハグによる孤児のための活動、(2)シャルトルの聖パウロ会による経済の充足と女性の地位向上のためのプロジェクト、(3)善き牧者修道会の地域社会の生活向上のためのプロジェクトを知る機会を持ちました。また、チャンタブリ教区のステラ・マリスとパタヤの善き牧者修道会の「命の泉センター」から、サーバイバーのストーリーが紹介され、現場からの声から学ぶことの大切さを改めて感じることができました。タリタ・クムの国際コーディネーターであるシスター・ガブリエラ・ボッターニから、タリタ・クムの「活動への呼びかけ」の説明がオンラインでなされ、次の4点が方向性として確認されました。

- 1: 司法へのアクセス、および国家が支援する長期的な心理社会的・保健的支援を確保する。
- 2: 女性や少女、そしてその家族やコミュニティのエンパワーメント。
- 3: 強制移住の場合を含め、安全で合法的な移住経路を支援する。
- 4: ケアと連帯の経済を促進する。

各国のタリタ・クムについて特に印象深かったのは、多くの女子修道会が行動的に参加し、人身取引の現場に関わっていることと、カトリック学校のネットワークが、問題についての意識化教育をカリキュラムとして進めていることでした。国際タリタ・クムは、2015 年から国際コーディネーターとして働かれたシスターガブリエラ・ボッターニに代わって、現在までタリタ・クム・アジアのコーディネーターをされたシスターアビーが就任されました。日本、アジアの現状に詳しいシスターアビーとともに、現代の奴隷制への取り組みを、さらに深めてまいりましょう。



今こそ技能実習制度を廃止し、まっとうな外国人労働者受け入れ制度を！

J-CaRM 専門委員

山岸 素子

日本社会の少子高齢化にともなう労働力不足をおぎなうため、政府が外国人労働者の活用方針として打ち出して以降、外国人労働者は年々増加し、昨年は 172 万人でした。そのうちの 32 万人(2022 年 6 月末統計)は、技能実習制度のもとで働く実習生です。技能実習制度は、建前としては、途上国への技能移転を目的と謳っていますが、実態は人手不足の日本社会を支える安価な労働力の供給源となっており、さまざまな人権侵害を生み出してきました。そのためこの制度は「人身売買」「強制労働」の温床として、アメリカ国務省 や、国連の自由権委員会や、人種差別撤廃委員会など、国際社会から長年にわたって批判され、改善の勧告を受けてきました。

人身売買の温床と批判されながらも、日本政府は長年にわたり、技能実習制度のもとでただの一人も人身取引被害者として認定することはありませんでした。このような中、昨年、技能実習生4人がはじめての人身取引被害者として認定されたことは画期的なことでしたが、氷山の一角が認定されたにすぎません。

他方で、今、技能実習制度の行方や新たな外国人労働者受け入れ制度が、政府・与党や経済界でも活発に議論されています。今年の冒頭の年頭所感で古川法務大臣は、「技能実習や特定技能、これらは、ちょうど今見直しの時期を迎えています。この際、大胆に見直し作業に取り組みたいと思います。技能実習制度には、本音と建前のいびつな使い分けがあるとの御意見・御指摘にも、正面から向き合わなければなりません」と述べました。報道によれば、年内にも関係閣僚会議のもと、外国人労働者受け入れ制度の見直しに関する有識者会議が設置されて検討が進み、来年の国会には法案が提出される見込みのようです。

私たちカトリック教会が望むのは、外国人労働者が人として労働者として日本人と等しく権利と尊厳が保障される労働者受け入れ制度です。そのためには、職業移動の自由の保障や、家族の帯同を認めるなど、定住して日本に生きていくことを選択できるような制度が必要です。今年 5 月～6 月にかけて、まっとうな外国人労働者受け入れ制度を求める「技能実習制度廃止！全国キャラバン」が全国展開されました。J-CaRM も賛同し、市民団体とともに取り組みました。来年に向けて、制度の抜本的な見直しができるのかどうかの正念場で引き続き、みなさんと声をあげていきましょう！



若者の声

「心を奮い立たせ、力を与える体験」

タリタクム日本ユースアンバサダー

小林 恭平



タリタクム日本ユースアンバサダーのキョウです！僕はタイのバンコックで開催されたタリタクム・アジア地域会議に、とても幸運なことに参加することができました。この会議は、「人身取引をなくすためにアジアのネットワークに網を打つ」というタイトルのもとに2022年8月22日から26日まで行われ、14か国から50人以上のシスターや信徒宣教者、若者が集いました。

参加者の中で男性は自分だけでしたが、ちっとも気になりませんでした。むしろ、シスターや信徒宣教者の方々の母のような優しさに包まれてホッとしていました。「母こそ一番の理解者」とよく言うように、神の子らのために何が最善であるかが、彼女たちにはよく分かっていました。気づかうこと、いやす(癒す)こと、力づけること、そして何より、声も上げられずに苦しんでいる無力な人々を愛することです。

この機会と体験を与えてくださったことに、ことばで言い表せないほど感謝しています。多くのことを学んだからだけではありません。新しい友達、新しい家族、そして新しい人生の目標を見つけたからです。アジアのさまざまな国の多くの苦しんでいる人の現状に接することは、まさに目からうろこが落ちるような経験でした。東京にいる間中、背広を着たビジネスマンや制服姿の学生の人混みにまみれていたため、何も見えなくなっていました。しかし今は、学校に通う自由すらない子どもたちの現実を見据えています。

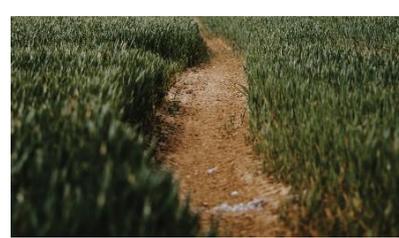
各国からの人身取引のケース報告や多くの悲惨な現実を伝える情報に接し、衝撃を受けましたが、その一方でそうした人々を支え、守っている方々の素晴らしい活動に驚きを覚えました。一つひとつの使命に注ぐ各自の愛と寛容さ。彼らがこの世界にもたらす希望。そして、自分のことは顧みずに人々のために尽くす各々の人から感じられる喜び。そして最後に、そうした人々と会い、彼らから学び、彼らと一緒に祈り、彼らとともに笑い、夢見ることができたからこそ、この経験は心を奮い立たせ、力を与えるものとなったのです。



「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」祈りのルー(2月8日)のご案内

今年の2月8日、「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」、聖ジョゼッピーナ・バキータの記念日に、祈りのルーが開催されます。タイトルは「Journeying in Dignity(尊厳をもって歩む)」です。世界各国のタリタクムの若者たちが作成した動画が、祈りの巡礼として次々とオンラインで放映されます。日本の若者による動画が配信される時間等の詳しい情報は、追ってお知らせしますので、是非ご視聴ください。

「尊厳をもって歩む者として、希望の巡礼者として、移住者とともに歩みましょう。この旅により、わたしたちは神と出会い、そして自分自身と兄弟姉妹と会うことができます。心の旅に欠かせない、預言者ミカのこのことばを心に刻んで歩みはじめましょう。『正義を行い、いつくしみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである』(6・8)」〔2023年前晩の祈り(Vigil of Prayer 2023)より〕。



第一の駅「搾取と人身取引という痛ましい状況に陥っている人と会う」

第二の駅「人身取引の被害者と、人身取引を無くすために尽くしている人の間に橋を架ける」

第三の駅「普遍的な兄弟愛と社会的な友愛のための出会い」

募金のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など今後の活動のための募金をお願いしております。ご協力よろしくお願いたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

「タリタクム日本活動支援」の欄にを入れるか、

通信欄に「タリタクム日本」と明記してください

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話:03-5632-4441 FAX:03-5632-7920 E-mail:jcarm@cbcj.catholic.jp